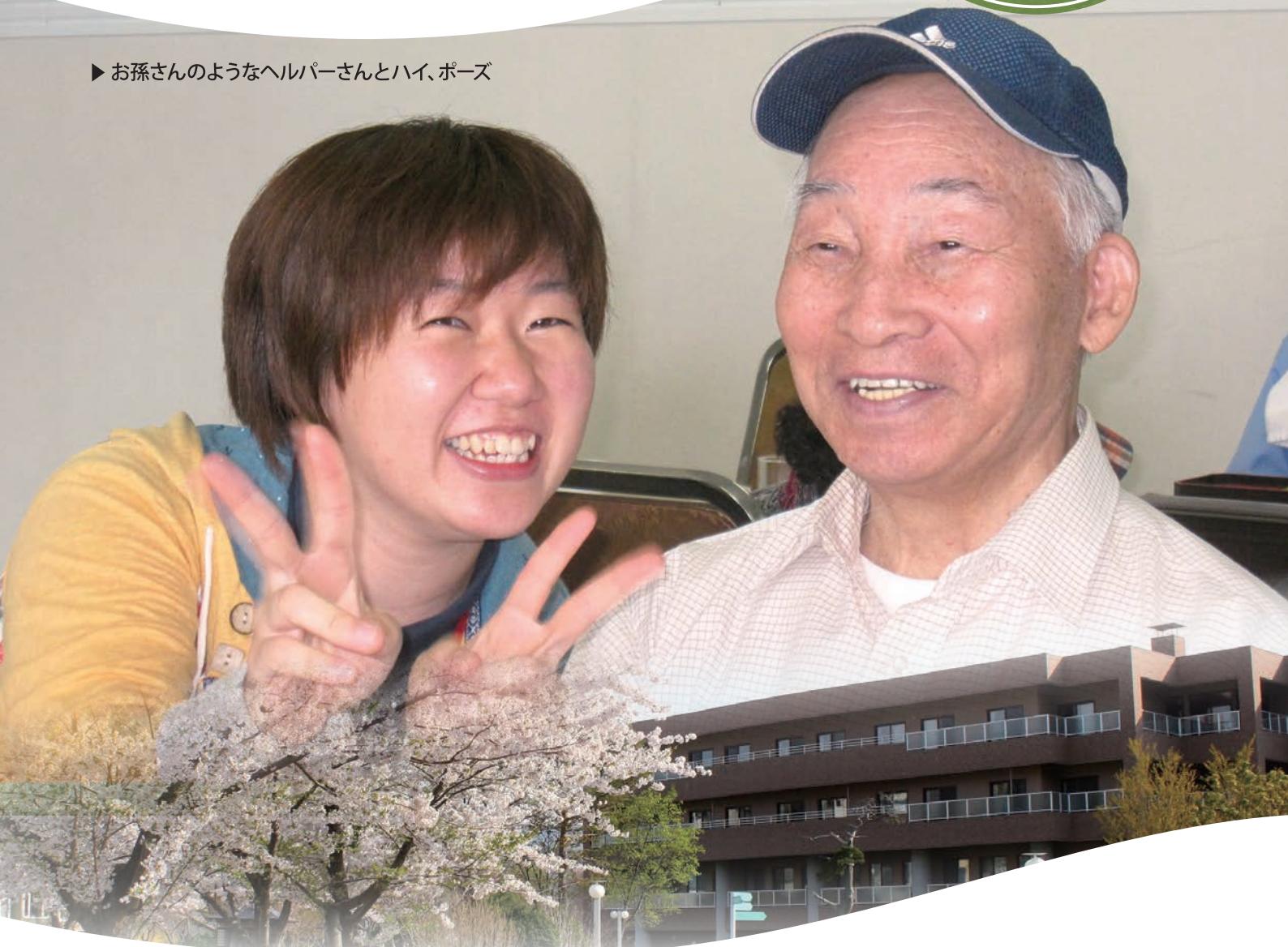


えかごよみ

45号
2016年

▶お孫さんのようなヘルパーさんとハイ、ポーズ



(人間を大切にするサービスの提供)

社会福祉法人 小樽育成院 運営理念

基本的人権の確保と擁護

利用者の自立した生活を支援するため
のサービスを提供します。

利用者の生活と生き方を尊重したサー
ビスを提供します。

利用者中心のサービスを提供します。



発行／社会福祉法人 小樽育成院

〒048-2671 小樽市オタモイ1丁目20番18号
TEL: (0134) 28-2500 (代) FAX: (0134) 26-2476
URL: <http://www.otaru-ikuseiin.com>

社会福祉法人小樽育成院 平成28年度事業計画について

基本方針

- 社会福祉法の改定によりガバナンスの強化、運営の透明化、財務規律の強化、地域貢献の責務が求められている。
- 適切な福祉サービス提供のため、組織の安定と継続は必要条件であり、その実現のため次の重点目標を掲げ事業展開する。

収支の改善・法人本部機能の強化と一元化の推進

- ◆事業展開の見直し・変更に取り組み収支を改善。
- ◆社会福祉法人改革もあり、法人本部機能の強化と全事業所を一元的に管理することで効率的運営を図り、理事会・評議員会の役割と機能について整理・調整する。
- ◆当法人の基本理念である「基本的人権の確保と擁護」を推進。
- ◆給与システムの見直し、人事考課制度の検討、介護職員待遇改善を図る。
- ◆当法人が持つている福祉と介護のノウハウを地域に還元し、地域への社会貢献と地域の活性化を進めながら事業を展開する。
- ◆人格・人権を尊重し、安心・安全なサービスとともに、虐待・不適切介護・感染症集団感染等の防止・予防に努める。

人材の確保と育成

- ◆当法人の基本理念である「基本的人権の確保と擁護」を推進。
- ◆給与システムの見直し、人事考課制度の検討、介護職員待遇改善を図る。
- ◆当法人が持つている福祉と介護のノウハウを地域に還元し、地域への社会貢献と地域の活性化を進めながら事業を展開する。
- ◆人格・人権を尊重し、安心・安全なサービスとともに、虐待・不適切介護・感染症集団感染等の防止・予防に努める。

法人理念の追求と実践

- ◆当法人の基本理念である「基本的人権の確保と擁護」を推進。
- ◆給与システムの見直し、人事考課制度の検討、介護職員待遇改善を図る。
- ◆当法人が持つている福祉と介護のノウハウを地域に還元し、地域への社会貢献と地域の活性化を進めながら事業を展開する。
- ◆人格・人権を尊重し、安心・安全なサービスとともに、虐待・不適切介護・感染症集団感染等の防止・予防に努める。

地域連携と情報発信

- ◆当法人の基本理念である「基本的人権の確保と擁護」を推進。
- ◆給与システムの見直し、人事考課制度の検討、介護職員待遇改善を図る。
- ◆当法人が持つている福祉と介護のノウハウを地域に還元し、地域への社会貢献と地域の活性化を進めながら事業を展開する。
- ◆人格・人権を尊重し、安心・安全なサービスとともに、虐待・不適切介護・感染症集団感染等の防止・予防に努める。

オタモイ ティサービスセンター

〒048-12671
小樽市オタモイ1丁目20番19号
TEL(0134)26-11116
FAX(0134)26-11129

オタモイティサービスセンターは4月より、サービスの提供体制を見直し、在宅生活の継続を主眼に利用者様の持つ潜在的な力などを引き出させる個別ケアの充実を図るため、利用者定員を35名から18名規模に縮小した「地域密着型通所介護事業所」として活動することになります。一日の過ごし方の個別化としては「生活」を取り込んだ活動や「作る」楽しみを加えた食事の提供及び「非日常」を感じさせる行事、外出レクレーション等を進めていきます。今後、地域に開かれた「ティサービスとなるよう努めています。



オタモイ ケアプランセンター

〒048-12671
小樽市オタモイ1丁目20番18号(やすらぎ荘内)
フリーダイヤル 0120-1514-294
FAX(0134)26-10894

オタモイケアプランセンターでは4名のケアマネジャーで約150名の利用者様の支援を行っています。介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」、「自分でいい生活の継続」及び「自立支援」を基本として、利用者様・家族様の要望、生活環境を確認し、適切な介護サービスが受けられるようサポートしています。利用者様と家族様が安心して住み慣れた地域で生活できるように、市町村や地域包括支援センターなどの関係機関との綿密な連携を図っています。



小樽市北西部 地域包括支援センター

〒048-12671
小樽市オタモイ1丁目20番18号(やすらぎ荘内)
TEL(0134)28-12522
FAX(0134)28-12523

小樽市北西部地域包括支援センターでは、小樽市から委託を受け65歳以上の皆様、家族様の介護に関することや消費者被害や人権擁護等について、高齢者の生活に関わる相談を受けています。そのほかに出前講座や介護予防教室を開催しています。今年度は、北西部地域で5か所となる介護予防教室を幸会館で立ち上げ、月に2回実施します。



養護老人ホーム 小樽育成院

〒048-12671
小樽市オタモイ1丁目20番20号
TEL(0134)26-10162
FAX(0134)26-12874



特別養護老人ホーム やすらぎ荘

〒048-12671
小樽市オタモイ1丁目20番18号
TEL(0134)28-12500
FAX(0134)26-12476



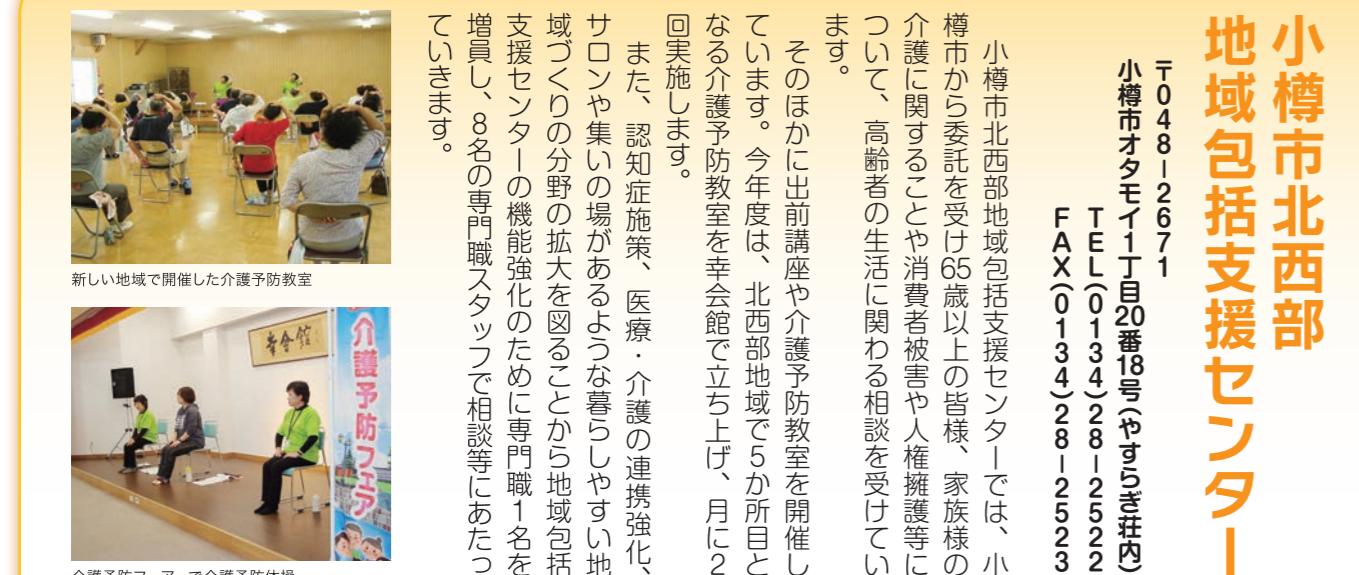
養護老人ホーム小樽育成院は小樽市の措置施設として「セフティーネット」の役割とともに、利用者の要介護化が進む中、平成18年から介護保険サービスによる特定施設として入所者生活介護の支援も行っています。当施設では外部サービス利用型特定施設のサービス提供をしてきましたが、昨年度の介護保険制度改革により利用者様の重症化への対応や多くの方に生活介護支援を提供することができる一般型特定施設に変更して、より良いサービスの提供を行っていきます。

また、安心・安全な施設の環境整備、利用者様の自立支援等を進めるとともに、職員の資質の向上、人材の確保等マンパワーの強化を図っています。

近年、利用者様の重度化に伴い、介護職員の腰痛などの労働災害が問題化されており、当施設でも今年度から職員の負担軽減のほかに利用者様の安心・安全に繋がる介護となるよう、ベッドから車椅子への移乗等の際に使用する床走行スタッフが利用様の出来ない部分を24時間体制でお手伝いさせて頂く生活施設です。

施設での生活は、利用者様一人ひとりの生活スタイルが尊重されるため、日常生活を自由にのんびりと過ごすことが出来ます。

特別養護老人ホームやすらぎ荘は、概ね65歳以上の原則要介護3~5の方を対象に、ユニットと呼ばれる家庭的な環境のなかで、専属のスタッフが利用様の出来ない部分を24時間体制でお手伝いさせて頂く生活施設です。



新しい地域で開催した介護予防教室
介護予防フェアで介護予防体操

小樽育成院



利用者様の外出や病院の送迎に使用し、助手席はスライド式のシートとなっている福祉車両。

平成27年度の収入面では、利用者様の稼働率は97.4%と予算より下回り、措置費については前年度に比べ少なくなりましたが、特定施設としての介護保険収入では利用者様の増加により、収入全体としては前年度を上回ることができました。人材の確保等に関しては、離職者もいましたが、新規採用や中途採用により職員を補充できました。また、衛生委員会を設置し働きやすい職場環境ややりがいのある仕事づくりのため、チーム研修、介護技術研修等、体系的かつ計画的な研修システムづくりに努めました。

事業の運営では、公益財団法人中央競馬主社会福祉財団の助成金を受け助手席リフト付福祉車両を購入し、利用者様の病院送迎や外出支援に役立つことができました。

やすらぎ荘



施設内でスライドボード等を使用しての技術研修の様子で、職員は真剣に話を聞いていました。

やすらぎ荘では平成27年度の介護報酬改定により厳しい経営環境のもとで、稼働率を高め、加算を確保することにより経営基盤の安定を図りました。人材の育成では、新規採用時研修に加え、年間の研修計画に基づき、計画的な研修を実施し、研修委員会活動の活発化を図り、課題解決能力や役割意識をもつて業務に携わるよう取り組みました。また、介護保険法の改正による重度化への対応ができる体制づくりを進めましたが、介護技術委員会を中心として、福祉用具に対する理解を深め、スライドボードやスライドシートを活用した介護技術を導入し、一人でも介助が出来るリフト装置の導入を進め、介護職員の腰痛予防等の負担軽減を図っています。

オタモイデイサービスセンターでは、在宅生活の継続を主眼に、利用者様の持つ潜在的な力や可能性を引き出せる個別ケアの充実を図っています。主な活動としては、日常生活動作訓練や、囲碁・将棋などの趣味活動、和紙工芸や手芸の作品作りを行っています。また、季節に応じた行事として、屋外屋食会や餅つき、新年会などを行っています。

稼働率は、平成27年7月まで95.3%と好調でしたが、その後、施設入所など利用廃止や新規利用者様の依頼が少なく、低下がみられていますが、前年度に比べると6%の増加が見られました。

今後、平成28年度より「地域密着型通所介護」に移行する事になりましたが、地域課題の発掘やボランティアの活用を積極的に行っていき、地域の介護力の向上を推進したいと考えています。

オタモイデイサービスセンター



夏の心地よい風と日差しを浴びながら、皆様で「鮭のチャンチャン焼き」を食べました。

オタモイケアプランセンター

平成27年度の新規相談件数は355件、内訳としては「介護にかかる相談権利擁護、虐待」が1%でした。相談方法としては、電話がほとんどを占めますが、その他に、来所、訪問時などっています。

また、職員研修を隔月毎に開催し、連携をテーマに職員の資質向上を図りました。

平成27年度の給付管理の件数は約136人で昨年度とほぼ同様の対応件数となっています。

給付対応している利用者様の施設入所等により利用を止める件数が多くなっていますが、関係事業所との連携や地域住民との係りや困難ケースの積極的な受け入れにより、利用者の安心・安全な生活に資することに繋がりました。

今後も個々のニーズにあつた介護支援計画の作成に努めます。

小樽市北西部地域包括支援センター

平成27年度の新規相談件数は355件、内訳としては「介護にかかる相談権利擁護、虐待」が1%でした。相談方法としては、電話がほとんどを占めますが、その他に、来所、訪問時などっています。

また、職員研修を隔月毎に開催し、連携をテーマに職員の資質向上を図りました。

社会福祉法人小樽育成院 平成27年度決算概要について

法人としての決算概要

平成27年度の介護保険制度改正及び介護報酬の改定等への準備を基本として事業計画を立て、次の四つの重点目標を掲げ事業運営に当たりました。

1 経営安定のための環境整備

- 各事業所とも比較的順調に推移し、全体としては収支の改善が図られました。
- 12月から「経営改善検討会議」を開催し、法人全体の課題点を整理し、28年度事業計画に引き継がれました。

2 安心・安全の確保

- 救急救命研修や地域との合同防災訓練による備えを推進しました。
- 感染症の集団発生の防止に向けた意識啓発を図り、研修体制の強化を行いました。

3 サービス提供のための人材確保と資質の向上

- 募集活動をこれまでの専門学校卒業生のほか、高校卒業生も対象に求人活動を行いました。併せて「障がい者」の雇用についても積極的に取組みました。
- 資質の向上に対しては今年度より全職員を対象に「理念研修」を実施し、法人理念に基づき人材育成に努めました。

4 地域福祉向上と地域との関係強化及び情報公開、法人制度改革への備え

- オタモイ町会との連携強化、地域ネットワークづくり等に取り組みました。
- 広報誌やホームページのほか、介護相談フェア等を開催し情報提供の活動を行いました。
- 理事・監事・評議員に道社協主催の研修会への参加や法人役員研修会を実施しました。

平成28年3月31日現在
事業活動計算書の要旨
(単位：円)

科 目	金 額
資産の部	
流動資産	360,581,880
固定資産	1,749,240,922
(基本財産)	1,554,006,887
(その他の固定資産)	195,234,035
資産の部合計	2,109,822,802
負債の部	
流動負債	98,442,019
固定負債	329,035,840
負債の部合計	427,477,859
純資産の部	
基本金	222,861,910
国庫補助金等特別積立金	912,545,735
その他の積立金	78,126,898
次期繰越活動増減差額	468,810,400
純資産の部合計	1,682,344,943
負債及び純資産の部合計	2,109,822,802

科 目	金 額
活動サービス増減	
サービス活動収益	1,056,179,203
サービス活動費用	1,042,587,680
サービス活動増減差額(1)	13,591,523
活動外サービス増減	
サービス活動外収益	10,653,177
サービス活動外費用	6,145,514
サービス活動外増減差額(2)	4,507,663
経常増減差額(3)=(1)+(2)	18,099,186
特別増減	
特別収益	13,100,000
特別費用	13,142,841
特別増減差額(4)	△ 42,841
当期活動増減差額(5)=(3)+(4)	18,056,345
繰越活動増減差額	
前期繰越活動増減差額(6)	441,878,711
当期末繰越活動増減差額(7)=(5)+(6)	459,935,056
基本金取崩額(8)	
その他の積立金取崩額(9)	8,936,910
その他の積立金積立額(10)	61,566
次期繰越活動増減差額(11)=(7)+(8)+(9)-(10)	468,810,400

・減価償却費はサービス活動費用の中に計上。

資金収支計算書の要旨
(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
事業活動による収支		にあらわす活動	
事業活動収入	1,066,832,380	その他の活動収入	4,590,973
事業活動支出	985,349,995	その他の活動支出	11,619,016
事業活動資金収支差額(1)	81,482,385	その他の活動資金収支差額(3)	△ 7,028,043
に施設による収支		当期資金収支差額合計(4)=(1)+(2)+(3)	24,337,742
施設整備等収入	13,100,000	前期末支払資金残高(5)	306,752,119
施設整備等支出	63,216,600	当期末支払資金残高(6)=(4)+(5)	331,089,861
施設整備等資金収支差額(2)	△ 50,116,600		

・事業活動資金収支差額(1)は重要な指標で事業継続のためには、プラスを維持する必要がある。
・当期資金収支差額合計(4)は1年間の運転資金の増減差額を示している。
・施設整備等支出(5)には固定資産取得に係る借入金返済、固定資産取得のための支出を計上。
・当期末支払資金残高(6)は当期末における運転資金の残高。

※決算報告の詳細については、社会福祉法人小樽育成院(<http://www.otaru-ikuseiin.com>)や全国社会福祉法人経営者協議会(<http://www.keieikyo.gr.jp>)のホームページをご覧いただけます。

TOPICS とぴっくす



さあー、プレー開始よ！
ヤル気満々、
思わず小走りになりました。

平成28年7月14日に後志管内老人福祉施設協議会が主催する「老人福祉施設利用者交流パークゴルフ大会」が、天狗山中腹にある「おたる自然の村」で開催されました。

当日はパークゴルフ日和の好天に恵まれ、後志管内の5つの施設から二十二名の利用者様が参加して日頃の練習の成果を発揮され9ホールを回り、各コースには利用者様の歓声と笑い声も高らかにボールを打つ快音が響いていました。ちなみに参加者の平均年齢は八十四歳となっており、最

高年齢は九十二歳です。凄くお元気ですね！

競技終了後、天狗山山頂レストランへの移動には天狗山ロープウェイを使用し、眼下に眺める新緑の山と小樽の街並みとマリンブルーの海の景色を満喫し、昼食交流会では表彰式を行い、翌4年に新たに奥沢小学校裏手に新院舎を建てて移転しました。

「また来年も会いましょうね」と今日一日楽しかった交流に感謝してそれぞれの施設への帰路につきました。



クラブも軽快にナイスショット！
かなり飛びました。
もしかして、ホールインワン？

『後志管内パークゴルフ大会in小樽』

四方山話

街の発展とともに 移転してきた育成院

小樽育成院は明治31年の創立以来、何度も場所を移転しています。

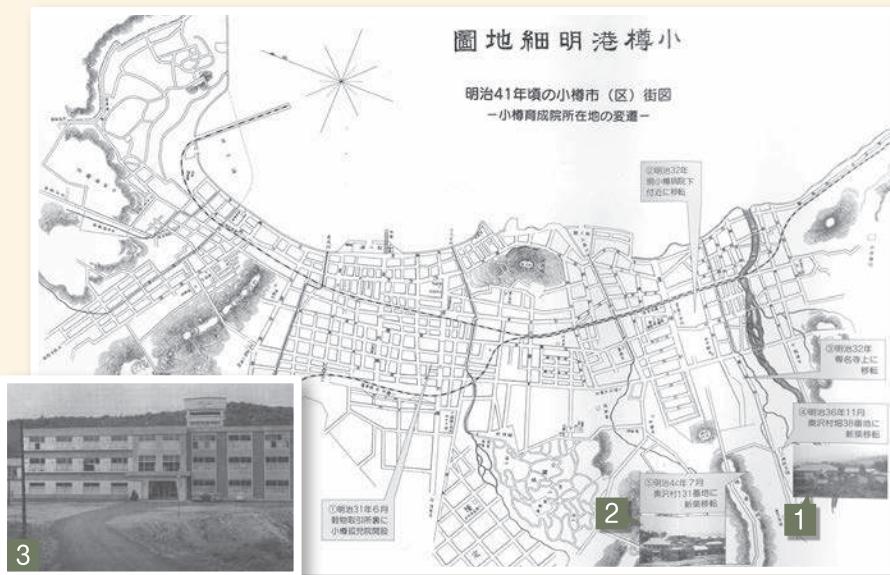
最初は「小樽孤児院」の名称で現在の産業会館裏手に居を構えました。人数が増えたことに伴い、現若松町、次に奥沢口に引越し、明治36年に現在の札幌トヨペット付近に新築移転しています。

さらに明治43年、「財団法人小樽育成院」と名称を変え、翌44年に新たに奥沢小学校裏手に新院舎を建てて移転しました。

昭和39年、小樽育成院が現在のオタモイ1丁目に移転するまでの50年以上の長きにわたり、この建物（院舎）が入所していた子供やお年寄りの命を見守ってきました。

圖地細明港樽小

明治41年頃の小樽市(区)街図
—小樽育成院所在地の変遷—



昭和39年7月 オタモイに新築移転

明治41年頃の小樽市(区)街図
—小樽育成院所在地の変遷—



明治36年11月 奥沢村畠38番地に
新築移転



明治44年7月 奥沢村131番地に
新築した新院舎